

(じいじ、ばあば)



じいじ、ばあばという呼び方を聞くとなんかイヤになってきます。

あまつさえ、孫に対して自分のことをじいじが、だのばあばが、だの言っているのを耳にすると心の中で耳をふさぎたくなります。

かつてどこかの鉄道会社だったか旅行会社だったかの宣伝で、いい歳をしたおっさんやおばはんのことを、売らんがために「ナイスミドル」などと臆面もなくおだて上げているのを聞いたときのことを思い出してしまうからです。

そんなわけで息子夫婦には、ぼくらのことを孫に呼ばせるときには「じいさん、ばあさん」で結構。せいぜい「じさま」と「ばさま」くらいにしてくれと言ってあります。

どう見たってぼくらは可愛くもないししゃれても居ないので、全然似つかわしくないからです。

それを差し置いてのその呼び方をされると、なんかかわいらしい動物キャラの着ぐるみをきせられて、休日、デパートの屋上でうんちゃらショーに駆り出されたみたいで窮屈だからです。ばあさんの方は訊いてみないとわかりませんが、少なくともじいさんのぼくはそうなのです。

そんなもの、いちいち目くじら立てずに、はいはいってきいておけばいいじゃないのよ、大人げない！と言われそうですが、意固地な僕はやはり、イヤなのです。これが僕の、なけなしの「美学」だからかもしれません。